デイサービスセンターけあのすけ

第 21 回　運営推進会議　議事録



開催日時　：R8 年 9 月 17 日（木）13：30～14：20

議　　題：①運営状況についてのご報告（ご利用状況、配置職員等）
②防災関係の備蓄追加について
③次回開催日や開催する時間帯等について（ご要望）
④介護相談、意見交換など

参 加 者：市職員　1 名
知見者　1 名
事業所職員　2 名

①　運営状況について（ご利用状況、配置職員、活動等）

＜利用者様のご利用状況について＞

・令和 7 年 9 月　現在の登録人数：24 名（男性 13 名、女性 11 名）

・平均年齢

	60 歳～	70 歳～	80 歳～	85 歳～	90 歳～	95 歳～	平均年齢
男性	1	6	2	3	2	0	80.87
女性	0	2	1	2	2	3	87.86
合計	1	8	3	5	4	3	84.21

〇80 歳以上のご利用者様が多く在籍される中、R8 年 1 月頃からは 60 代、70 代の方のご利用も増えてきています。男性のご利用者様が多く在籍しています。

・要介護度別利用人数

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	申請中・区分変更中	合計
男性	4	4	3	1	1	0	13
女性	0	2	3	5	1	0	11
合計	4	6	6	6	2	0	24

・平均要介護度（R7 年 10 月～R8 年 3 月）

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
男性	2.5	2.6	2.4	2.2	2.3	2.3	2.4
女性	3.0	3.0	3.3	3.3	3.5	3.5	3.2
平均	2.8	2.8	2.8	2.7	2.9	2.9	2.8

＜職員の配置状況　9 月現在＞　在籍数…9 名（うち 1 名は調理員）

利用者様の介護や看護に要する時間を十分に確保するため、職員配置数を多くしています。また、下記職種については毎日出勤しているように勤務を組んでいます（介護助手を除く）。

職種	業務内容	常勤	非常勤	計
管理者	職員・業務の管理	1（兼務 1）		1
生活相談員	生活指導、養護、送迎、 介護予防・通所介護計画作成	2 （専従 1、兼務 1）		2
機能訓練員	機能訓練指導、助言		3（兼務 3）	3
看護職員	健康チェック、動作訓練		3（兼務 3）	3
介護職員	介護全般、送迎	2（兼務 2）	1（専従 1）	3
介護助手	介護助手		1（専従 1）	1

＜活動報告＞

・毎月、季節に応じた壁飾りを創作活動の一環として作成し、フロアに飾らせて頂いたり、持ち帰って頂きました。

4 月→桜、星のガーランド作り　5 月→こいのぼり、お花の手鏡作り　6 月→あじさい、かたつむり、梅雨　7 月→ひまわり、くらげの飾り作り　8 月→花火　9 月→コスモス　など）

・お誕生日のお祝い(毎月)

写真を撮り、個別にお祝いの飛び出すメッセージカードを作成してプレゼントさせて頂きました。写真を取り出せるように工夫し、喜んで頂けています。

・毎年、夏頃に施設入口周辺の側溝の掃除と側溝内の草引きを行っています。

今年も 6 月と 7 月に実施しました。草が側溝内に沢山生えて、水の流れが悪くなるため、災害対策および地域貢献活動の一環として実施致しました。

②　防災関係の備蓄追加について

少しずつ、無理のない範囲で備蓄品を増やしております。

・携帯非常用寝袋（アルミ素材）
・保湿ポンチョ（アルミ素材）
・使い捨て圧縮タオル
・アルミマット
・歯ブラシ
・レインコート（ビニール製）
・洗濯バッグ（20L、10L）
・雨でも書けるノートブック
・防水ショルダーバッグ　など

※食料品や水についても、期限を管理しながら随時入れ替えていきます。

③　次回開催日や開催時間帯等について

＜次回の開催予定月＞

令和 9 年 3 月

※都合により日程の変更をさせて頂く場合や、参加人数を制限させて頂いたりする場合がございます。

④介護相談、意見交換など

（けあのすけ）

・開業当初から数年間は、中重度の方や看護師による医療面への関りが必要な方が多かったが、数年前からはお元気な方が増えてきています。
地域的には、大王町～神明周辺の方が多く、和具や安乗方面の方も在籍されています。

・職員の高齢化や看護師・介護食の人材不足なども感じており、「中重度の方や医療面でのケアが必要な方を積極的に受け入れていく」という開業当初からの経営方針がどこまで維持していけるかという課題を感じています。

（志摩市介護・総合相談支援課職員様）

・全国的に人材不足は起きており、志摩市においても、いかに施設を減らさずにサービスの質を確保していくかということが検討されています。

・備蓄追加品目の中に歯ブラシがあったが、これは利用者様が泊りになることを想定してのものでしょうか？
→はい、その通りです。発災後、安全を確保したのち、事業所は利用者様を安全にご家族様のもとへ帰すことに注力しますが、利用者様のご自宅の場所（海の近くなど）やご家族様と連絡が取れない場合など、すぐに帰すことができないケースが出てくることも想定しています。その際に必要になるものとして、今回追加させて頂きました。

・災害時、特に高齢者などは口腔ケアが重要で、口腔ケアができていないと誤嚥性肺炎を引き起こしやすいという情報があります。ペットボトルのキャップ 2 個分の水で口腔ケアができる方法を紹介しているところがあるので、是非確認してみて下さい。

・福祉避難所に利用者様を伴って避難された事業者さんの中に、利用者様向けのおにぎりを持参して下さった所がありました。地域からたくさんの方が避難された場合、全ての方に食事を割り当てていくには時間がかかったりすることも想定されますし、何より利用者様の身体状況等を良く把握されている事業所の職員さんが、利用者様が食べられるものを考えて持ってきて下さったことが有難いと感じました。日本から離れた場所で発生した地震による津波警報の場合など、避難に時間的余裕がある場合には、このような協力の形も有難いです。

（知見者様：地域密着型通所介護）

・利用者様を伴って避難する場合、施設で備蓄している食料等を持っていく形での協力はとても素晴らしいと思いました。自分たちも考えていこうと思います。

・独居の方の送迎時に、出発までの準備や荷物の準備ができていないことはありますか？また、そのような場合はどうされていますか？
→認知症を伴う独居の利用者様によくあります。できる範囲で協力させて頂いていますが、頻度が多かったり、時間がかかりすぎるような内容である場合はケアマネジャー様に報告・相談して、訪問介護さんに送り出しの準備をして頂いたりしています。